

# ずいそう

2月初旬に1週間ほど、岩手県陸前高田市に滞在していた。14年前に大津波に遭ったまちは、嵩上げ工事を経て、あららしい形で再生している。私自身は震災後3年間このまちで暮らしていたため、懐かしい人との再会が多く、うれしい旅



この機会をくれたのは、このまちの若い人たちだ。現在、能登半島地震の記録に通っている私に、かつての「被災地」で暮らす者として、次の被災地にできることを探したいと呼んでくれたのだ。報告会を開いて驚いたのは、彼らがすでに、「東日本大震災を知らない」ということ。会を主催してくれたのは移住2年目の女性で、日常会話

## かつての被災地から次の被災地へ

瀬尾夏美(アーティスト)

では震災について語れないので聞きづらいという。地元出身者であつても、当時は幼かったり、被災が大きい人への配慮もあつて話すことを避けたりしてきたという。

能登の写真や被災した人たちの声を紹介すると、彼らは必死に、能登に何ができるかを考える。そして同時に、このまちの過去や、まちを再建してきた大人たちの気持ちに思いをはせる。こ



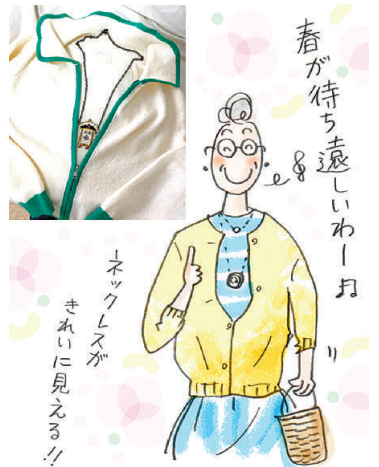
自分のブログに、「なんでもないけど好きなかつこう」と称して日々の服装をイラストで描いている。まとめて眺めると本当になんでもない格好ばかりして

る。GパンとTシャツ、スエットの上下、バスや電車に乗つての遠出のお出かけも少ないものだから、「普段着」がメイン。晴れわたる青空と春めく日差しなのに、ま

## カーディガンさえあれば

まだまだ寒い冬だぞと冷たい北風やみぞれに念を押されてしまう。今の時期、私のなんでもないけど好きな格好は、カーディガンを中心にする着方だ。コットンパンツにワッフル生地

長きなど少しずつ違うものを集めた。そして中に着るTシャツで大いに遊ぶのだ。胸に絵や文字の大きく入ったTシャツは躊躇することも



今季、重宝しているのは襟付きのものだ。少しだけきちんとしていた時に便利で、また春

うい形の記憶継承もあり得るのか、と私は思う。みんなで乗り合いして、とにかく行ってみよう。陸前高田の若い人たちは、そう結論を出した。

先には薄手ジャケットとして羽織れそう。カーディガンは寒暖の差に対応しつつ首周

りの巻き物のおしゃれも楽しい。小回りがきくね。最近手に入れたフリンジ付きのスカート

# BOOK

ゆびさきに魔法  
三浦しをん  
庶民的な商店街でネイルサロンを営んでいる女性が主人公。独身で仕事に打ち込む30代半ば。小さな戸惑いや気弱、憧れと裏返し

がたつ日々だ。ひょんなことからコミュニケーションの新しいスキルを身につけてきた。苦しいながらも、商店街で生まれる予想外のつながり。気がつけば「こたつみたいに入

朝日新聞出版 1600円+税  
「格差の格」ってなんですか？  
組織開発コンサルタントとして働きながら、人を学歴や所得で分け、ある側を優

「よりよい生き方」を分かった気になつていないか。未来のために今一度疑ってみよう。

## 代田知子さん 子どもの本 大人もぜひ!

まずは、絵本『巨石運搬！海をこえて大阪城へ』から。約400年前、良い石が取れる瀬戸内海の島では、岩山の崖の上で石工たちが石切り歌に調子を合わせ、カン！カン！と石を切り出している。「おーい、そろそろだぞ！」「にげろ！石がわれるぞ！」。巨大な石がバキバキバキと地面に落ちる。巨石を船にのせて大阪へ運び、大阪城の石垣を作る。すべて人力！大ぜいの石工や大工や人夫たちの知恵と技術と労力を積み重ね、やっと石垣が完成する。絵が広がるしかけもあり迫力満点だ。



次は、『ティンガティンガ・アートでたのしむアフリカのむかしばなし』(全3巻)の第1巻。表紙と挿絵に使われている「ティンガティンガ・アート」は、6色のペンキで描くタンザニア発の現代アート。本書収録のケニア、ウガンダ、タンザニアの素朴で愉快な「なぜなぜばなし どうぶつ村の井戸」とぴったり合う。読んであげれば幼児から楽しめる。

ティンガティンガ・アートでたのしむアフリカのむかしばなし  
なぜなぜばなし どうぶつ村の井戸  
しまおかゆみこ 編・再話 ヤフイドウ 絵  
(小学校中学年～)  
かもがわ出版 1800円+税

最後は、『この銃弾を忘れない』。スペイン内戦時代(1936～1939年)の実話をもとにした物語だ。1938年、少年ミゲルの父は2年前に「民主主義を守る戦い」に出たきり行方不明だ。ある日ミゲルは、200キロ近く離れた町の収容所で父を見たという話を聞き、母に頼まれ、父を探す旅に出る。相棒は愛犬だけ。オオカミや敵の兵士におびえる危険だらけの旅だがミゲルは諦めない。歴史の知識がなくても引き込まれ、内戦時代に何が起きていたのかがよく分かる。



この銃弾を忘れない  
マイテ・カランサ 作 宇野和美 訳  
(中学生～)  
徳間書店 1700円+税

編集部から  
先達の努力で少しずつ改善されてきた社会、次は……次号は、『選択的夫婦別姓すべし！』などを掲げた私たちが……との前川先生の話(1面)に、力を得た。……新婦人の署名提出&国会行動特集です。(あ)